

# 神戸高専女子学生の現状

上垣宗明\* 町田吉隆\*\*

## The Voice of Female Students at KCCT

Muneaki UEGAKI\* Yoshitaka MACHIDA \*\*

*Keywords* : female students, situation at KCCT, voice and feeling of female students

### 1. はじめに

平成 25 年 8 月 1・2 日に、全国公立高等専門学校協会「教務・学生協議会」（神戸高専主管）が開催された。1 日目は、協議事項や承合事項について全体会や教務主事室、学生主事室に別れて討議が行われた。2 日目の全体会のテーマとして「リケジョ」が設定され、全国の高専で女子学生へのキャリア教育の第一人者ともいえる香川高専一般教育科内田由理子先生を招いての講演が行われた。その後、参加した 4 高専（大阪府立大学高専、東京都立産技高専荒川キャンパス、東京都立産技高専品川キャンパス、神戸高専）から、15 分程度の各高専における女子学生の現状についての報告が行われた。

神戸高専の発表は、学生主事室が担当となり、比較的多くの学科や学年の女子学生と接している一般科の町田と上垣がその主担となった。

### 2. 過去 5 年間の女子学生について

#### 2.1. 女子学生数の推移

表 1 に、学科ごとの 1 年生から 5 年生の女子学生数の

表 1 学科ごとの女子学生数の変化

| 学科  | M  | E  | D  | C  | S  | 合計  |
|-----|----|----|----|----|----|-----|
| H20 | 8  | 4  | 20 | 71 | 47 | 150 |
| H21 | 9  | 5  | 19 | 71 | 44 | 148 |
| H22 | 11 | 6  | 17 | 65 | 48 | 147 |
| H23 | 11 | 10 | 19 | 64 | 43 | 147 |
| H24 | 13 | 10 | 23 | 61 | 47 | 154 |
| H25 | 20 | 13 | 27 | 60 | 49 | 169 |

(M:機械工学科 2 クラス E:電気工学科  
D:電子工学科 C:応用化学科 S:都市工学科)

\* 一般科 准教授

\*\* 一般科 教授

推移を示す。

表 1 に見られるように、全体として年々女子学生数は増えている。特に、平成 25 年度は 24 年度に比べて、15 名も増えている。より、詳しく見ると、以前は女子学生が多く在籍していた C 科の女子学生数は、平成 20 年度以降減少し続け、平成 20 年度と平成 25 年度を比べると、11 名減少している。しかし、M 科、E 科、D 科においては増加しており、E 科は 9 名増えている。S 科においては、年度によって違いはあるがほぼ同数で推移している。

次に学年ごとの女子学生数の推移を表 2 に示す。

表 2 学年ごとの女子学生数の推移

| 学年  | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | 5 年 | 合計  |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| H20 | 29  | 30  | 29  | 30  | 32  | 150 |
| H21 | 34  | 30  | 27  | 27  | 30  | 148 |
| H22 | 31  | 34  | 28  | 28  | 26  | 147 |
| H23 | 30  | 31  | 34  | 26  | 26  | 147 |
| H24 | 36  | 31  | 30  | 31  | 26  | 154 |
| H25 | 41  | 36  | 33  | 29  | 30  | 169 |

表 2 の特徴的な点は、3 年生から 4 年生への進級の際の人数の変化である。平成 20 年度から 21 年度では 2 名減、翌年は 1 名増、22 年度から 23 年度は 2 名減、翌年は 3 名減である。平成 25 年度の全学年の男女比は、男子 86%、女子 14%であるが、平成 20 年度～24 年度の 3 年生での退学者の男女比は男子 80%、女子 20%であった（男女合計 41 名、男子 33 名、女子 8 名）。平成 20 年度から 24 年度までの全学年での退学者の男女比をみると、全学年 113 名に対し、男子 95 名(84%)、女子 18 名(16%)であった。全学年の退学者の割合と比較しても、3 年生で退学する女子学生の

数は多いと言える。

4年生への進級で男子学生と女子学生の違いが特徴的であると思われる23年度をさらに詳しく調べた。23年度の3年学年末で退学した学生は9名である。男子が5名、女子が4名であった（平成24年度は、4年生へ女子学生が1名編入した）。男子の退学後の進路は、大学への進学2名、高校への編入2名、専門学校への入学1名で、2名は学年修了できずに退学している。女子は全て学年修了をしており、大学への進学2名、専門学校への入学2名となっている。女子学生の退学理由は、進路を自分で考え決定していることが分かる。言い換えると、前向きな進路変更とでもいえるだろう。

実際に学生を指導していても、男子学生の退学は、原級留置ができずに仕方なく退学する学生が多いが、女子学生は、そのような学生は少なく、自分の新しい進路のために進路変更をする学生が多いように思う。進路指導をする際には、男子学生に対しても同様だが、個に応じた指導が重要であり、退学して進路変更をするということも、一つの進路として認識しておくべきである。それに加え、教員の進路指導の経験値も適切な指導を行ううえでは必要な要素といえる。

## 2.2. 女子学生の進路について

表3に女子と男子の進学と就職の割合を示す。

表3からも分かるように全ての年度において、女子の進学率が低く、就職率が高いことが分かる。5年間の合計では、女子学生の7割が就職、3割が進学であるのに対し、男子学生では進学と就職の割合がほぼ5対5となっている。

表3 進路状況

|     |    | 女子  |       | 男子   |       |
|-----|----|-----|-------|------|-------|
| H20 | 就職 | 22名 | 73.3% | 82名  | 43.6% |
|     | 進学 | 8名  | 26.7% | 106名 | 56.4% |
| H21 | 就職 | 19名 | 70.4% | 83名  | 50.3% |
|     | 進学 | 8名  | 29.6% | 82名  | 49.7% |
| H22 | 就職 | 13名 | 52.0% | 104名 | 55.9% |
|     | 進学 | 12名 | 48.0% | 82名  | 44.1% |
| H23 | 就職 | 13名 | 65.0% | 111名 | 57.5% |
|     | 進学 | 7名  | 35.0% | 82名  | 42.5% |
| H24 | 就職 | 22名 | 88.0% | 109名 | 58.3% |
|     | 進学 | 3名  | 12.0% | 78名  | 41.7% |
| 合計  | 就職 | 89名 | 70.1% | 489名 | 53.2% |
|     | 進学 | 38名 | 29.9% | 430名 | 46.8% |

次に女子学生の進路の抜粋を下記に示す。高専卒業の女子学生の進路の特徴が顕著に表れている専攻科修了生の進路についても参考として、下記に記す。

### 本科卒業生の進路

- ・徳島大学 → 大阪大学大学院 → 小松製作所
- ・ミツテック → 日本ソフトウェアコンサルタンツ
- ・北斗電子工業 → 神戸市
- ・鹿屋体育大学 → デザント
- ・立命館大学 → KOBELCO グループ
- ・DIESEL（ファッション系）
- ・防衛省

### 専攻科修了生の進路

- ・(株)神戸工業試験場
- ・日東電工(株)豊橋事業所
- ・東洋ゴム工業
- ・参天製薬(株)
- ・奈良先端科学技術大学院大学大学院
- ・大阪大学大学院（工学研究科応用化学専攻）
- ・徳島大学（博士課程修了） → ポストドクター（スプリング8）

多くの学生は、工業系の企業に就職している。工業系以外でも自分の就きたい就職先を探し、自由応募で受験する学生が今後増えていくように思う。そのような学生に対しても進路指導を行えるような学校全体としての取り組みが必要である。

## 3. アンケートについて

### 3.1. アンケートの実施について

発表資料を作成するにあたり、どのような資料が必要かを議論した。その結果、女子学生の現状を把握するために、教員側からだけではなく、学生に意見や考え方を聞いて、それをまとめたものも発表資料に付け加えるという結論に至り、アンケートを実施することになった。アンケートの作成においては、町田が原案を作り、学生主事室内で検討を加えた(Appendix 1)。検討の結果、無記名で、4段階のリッカートスケールの設問と記述式の設問を混ぜ合わせ、回答時間の目安を10分程度とするアンケート用紙を作成した。

アンケートは、神戸高専1年生から4年生の女子学生を対象に実施した。1年生へのアンケートは、歴史を全6クラス担当している町田が授業中に実施した(40/41名の回答)。2・3年生に対しては、学生主事室内に全クラスを担当している教員がいないために、7月17日(水曜日)の昼休みを利用し、本部棟ホールに女子学生を集め、アンケートを実施した(2年生34/36名、3年生32/33名の回答)。2・3年生は、昼休みに実施したにも拘らず当日欠席の学生を除いて全員から意見を聞くことができた。4年生に対しては、全6クラス担当している上垣が英語演習の時間を利用し、アンケートを行った(28/29名の回答)。

全学生には、「このアンケートは、先生たちの勉強会に使う資料を作成するためだけに利用します。成績とは全く関係なく、正直な意見を記述してください。」と、その目的と利用方法を示した。

### 3.2. アンケートの結果について

項目1の高専を進学先に選んだ理由についての回答（複数回答可）を表4にまとめる。

表4 高専を選んだ理由

|       | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 合計 |
|-------|----|----|----|----|----|
| 工業系   | 14 | 7  | 5  | 2  | 28 |
| 勧められた | 9  | 12 | 4  | 12 | 37 |
| エンジニア | 15 | 10 | 5  | 7  | 37 |
| 就職    | 27 | 25 | 26 | 14 | 92 |
| 進学    | 7  | 7  | 6  | 4  | 24 |

各学年とも高専に進学した理由では、“就職しやすいと思ったから”が一番多い。“進学しやすいと思ったから”は、高学年の方が少ない。表3から分かるように、男子学生に比べて女子学生の進学する割合が低いこと、“工業系に進学したかった”、“将来が安定しているエンジニアになりたい”等の項目も高学年の方が少なくなっている。このことから、入学当初の「初心」が希薄になっていることが考えられる。また、「現実の壁」とも言うべきものを女子学生が次第に感じ始めている現象が見られる。これらを高専への進学理由と併せて考えると、4年生は雇用や労働をめぐる情勢を客観視できており、就職を切実な問題と感じていることが読み取れる。これは女子学生個々の意識にだけ帰納される問題にとどまらず、高専の進路指導、学生指導全体にかかわる課題である。

次に、女子学生としてメリットになっていると思うことについての回答（複数回答可）を表5に示す。

表5 高専の女子学生として、メリット

|           | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 合計 |
|-----------|----|----|----|----|----|
| 貴重な存在     | 11 | 8  | 5  | 5  | 29 |
| 男子と同じ     | 16 | 4  | 9  | 9  | 38 |
| 女子の結束力    | 13 | 12 | 10 | 9  | 44 |
| 男子と仲良くなれる | 4  | 8  | 4  | 10 | 26 |

1年生では、“男子と仲良くなれる”という項目以外は、メリットと感じている学生が多い。高専に入学してから4カ月も経っておらず、中学生の時と比較し

て教室内に女子が少ないことが女子の希少性を高めていると思っているのだろう。あるいは、女子が貴重な存在であってほしいという期待を抱いている学生が多いのではないだろうか。しかし、女子の希少性が社会的に有用であるという考え（期待）は、3・4年生では大幅に減少しており、現実を捉えることができるようになってきたと思われる。また、学年により“男子と仲良くなれる”の感じ方が異なるが、クラスや学年の雰囲気によって大きく左右されているのではないかとと思われる。“女子の結束力”をメリットと感じる学生は学年が進むにつれ減少しているが、女子だけの結束力ではなく、男子も含めたクラス全体としての結束力、まとまりが強くなっているのではないかとと思われる。

1年の女子学生の多くは、男子と同じ仕事や勉強ができることがメリットであると回答している。表4のエンジニアになりたいと思って高専への進路を決めた学生とほぼ同数なので、エンジニアは男子と同じ仕事ができているのではないかとと思われる。

高専の女子学生としてデメリットになっていると思うことについての回答（複数回答可）を表6に示す。

表6 高専の女子学生として、デメリット

|           | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 合計 |
|-----------|----|----|----|----|----|
| 同性の友達が少ない | 14 | 16 | 10 | 14 | 54 |
| 男子と同じきつい  | 4  | 4  | 2  | 5  | 15 |
| 女子で固まる    | 4  | 11 | 5  | 4  | 24 |
| 目立つ       | 2  | 4  | 8  | 10 | 24 |

表6から、“クラス、学校で目立つこと”以外の項目は、2年生を除くとほぼ同じような状況だが、この項目は、学年が進むにつれデメリットと感じる学生が増えている。女子学生の希少性をメリットと感じることが減り、男子と同じように学校生活を送って行きたいということの現れではないだろうか。その理由の一つとして、体操服の色を男子女子に関係なく統一してほしいという意見が多かった。体操服の色が異なれば、それだけで目立ってしまうために、それを避けるためにも、体操服の色を統一してほしいと希望しているのだろう。

女子学生が少ないので、どうすることもできないが、“同性の友達が少ない”をデメリットと感じる学生は、どの学年も多い。デメリットの自由記述では、一番多くの記述は、「特になし」であった。学生自身、女子だから、メリットやデメリットが特別多いという感覚をあまり持っていないように思える。

表5, 表6から, 2年生が他の学年に比べて, メリットをあまり感じずに, デイメリットを多く感じていることが分かる. この学年に限っての特徴なのか, 2年生だからこのような結果になったのかを継続して調査する必要を強く感じた.

卒業後の自分の将来像についての回答（複数回答可）を表7に示す.

表7 将来像

|       | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 合計 |
|-------|----|----|----|----|----|
| エンジニア | 27 | 18 | 15 | 22 | 82 |
| 主婦    | 4  | 14 | 8  | 10 | 36 |
| 研究者   | 10 | 6  | 11 | 3  | 30 |
| OL    | 5  | 3  | 4  | 1  | 13 |
| 公務員   | 5  | 13 | 6  | 6  | 30 |

“エンジニアになりたい”と希望する学生は1年生（希望）と4年生（現実）で多いことが分かった. 1年生は, 希望として“研究者”や“エンジニア”を将来像として描いているが, 4年生になると, より現実的になり, “研究者”“OL”を希望する学生が減少し“エンジニア”が増えるという傾向である.

このような傾向から4年生は進路について真剣に考え始め, 社会人としての自らのイメージを把握しようとしていることがうかがえる. また, 2年生以降に, “主婦+α”と回答した学生が多く, 「現実の壁」には2年生で気づき始めていると言えるだろう.

#### 4. 学生の声（抜粋）

学生の自由記述を抜粋し, 以下に示す.

- ・神戸高専生としてのモラルの向上に期待.
- ・教師の意識が低い（女子学生に対する）.
- ・学校をやめたい（1名）.
- ・体育を男子と別にして欲しい. 体操服の色を男子と同じにして欲しい.
- ・高専は慣れるまではしんどいが, 慣れたら楽しいし, 5年間同じ友達と過ごせる.
- ・高専へは, 勉強したい学生が入学すべき.
- ・せっかく高専に来ているのに, 女子だけのグループを作らず, 男子と交流したい.
- ・女子トイレを増やして, 綺麗にして欲しい.

アンケートから見える女子学生像は, 明確な動機を持って, 入学している学生もおり, 将来のリーダー候補になりうる存在である. また, 就職の実際（男女の区別）においては, 3・4年生に不安を感じている学生

が多い. 不安を解消するためにも, 過去のデータの提示やできる限り早い段階での, 前年度の進学, 就職の実績などを学生に提示するような学校全体の取り組みが必要である.

男子学生に対する不満の記述もあり, マイノリティーへの配慮不足を訴えるような文面もあった.

#### 5. まとめ

全体的に, 学年が進むにつれ高専に対してよい印象を持ち, エンジニアになりたいと思う学生が増えていることが分かった. そして, 学年が進むにつれ, 現実を理解でき, 4年生は進路について, かなり不安を抱えていることがわかった. また, 高専になじめない学生も少数在籍しており, 3年で進路変更を具体的に考えている者も見られた. 卒業時や4年進級時の進路指導は, 経験をつんだ教員による適切な個に応じた対応が必要であり, 全学的な取り組みがさらに必要になっていくであろう.

最後に, 神戸高専女子学生は, “「女性」として尊重してもらいたい”, と, “男女間で差をつけられるのはお断り”, という2つの考えを抱いて高専に通っており, 学年が進むにつれ, その傾向が強くなっている.

#### Appendix 1

##### 女子学生の高専についての意識調査

実施：神戸高専学生主事室

\*\*\*\* このアンケート用紙から得た情報は, 調査目的以外には使用しないので, \*\*\*\*  
\*\*\*\* 正直に自分の考えで回答してください. ご協力, 宜しくお願いします. \*\*\*\*

- 高専を進学先に選んだ理由に○をつけてください. 複数選択可
  - 工業系の高校（高専）に進学したかったから.
  - 親や学校, 塾の先生に勧められたから.
  - 将来, 安定したエンジニアになりたいと思ったから.
  - 高専を卒業すれば, 就職しやすいと思ったから.
  - 高専を卒業すれば, 進学しやすいと思ったから.
 その他（自由記述）
- 高専の女子学生として, メリットになっていると思う番号に○をつけてください. 複数選択可
  - 理系や工業系の女子が少ないから, クラスや社会で貴重な存在と思われる.
  - 女子でも男子と同じ仕事や勉強ができる.
  - 女子が少ないので, 女子の結束力がつよい.
  - 男子と仲良くなる機会が多い.
 その他（自由記述）
- 高専の女子学生としてデメリットになっていると思う番号に○をつけてください. 複数選択可
  - 理系や工業系の女子が少ないから, 同性の友達が少ない.
  - 女子でも男子と同じ仕事や勉強をするので, 少しきつい.
  - 女子が少ないので, 女子だけで固まってしまう.
  - 女子が少ないので, クラス, 学校で目立ってします.
 その他（自由記述）
- 入学してから, 気になることを書いてください.
 

---
- これから, 高専に変えて欲しいことを書いてください.
 

---
- 中学生の後輩に向けて, 高専について, 一言お願いします.
 

---
- 卒業後の将来像を選んで, 番号に○をつけてください. 複数選択可
  - エンジニア
  - 主婦
  - 研究者
  - OL
  - 公務員
 その他（自由記述）
 

---